

事例番号:280245

原因分析報告書要約版

産科医療補償制度
原因分析委員会第五部会

1. 事例の概要

1) 妊産婦等に関する情報

経産婦

2) 今回の妊娠経過

妊娠 27 週 5 日 切迫早産のため入院

妊娠 32 週 0 日 前期破水

3) 分娩のための入院時の状況

管理入院中

4) 分娩経過

妊娠 33 週 5 日

8:00 陣痛発来

11:15- 胎児心拍数陣痛凶上、変動一過性徐脈を認める

13:45 体温 38.0℃

15:00- 基線細変動の増加を伴った反復する高度変動一過性徐脈、遷延一過性徐脈を認める

16:22 胎児心拍異常のため帝王切開により児娩出

胎児付属物所見 臍帯巻絡あり(頸部 1 回)、捻転少

5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:33 週 5 日

(2) 出生時体重:1800g 台

(3) 臍帯動脈血ガス分析:pH 7.05、BE -15mmol/L

(4) Apgar スコア:生後 1 分 5 点、生後 5 分 8 点

(5) 新生児蘇生:人工呼吸(バック・マスク)

(6) 診断等:

出生当日 低出生体重児、新生児仮死、敗血症の疑い

生後 1 日 重症感染

(7) 頭部画像所見:

1 歳 0 ヶ月 頭部 MRI で、側脳室周囲に T1 強調像で淡い低信号、T2 強調像で淡い高信号を呈する領域を認める

4 歳 10 ヶ月 頭部 MRI で、end stage PVL (脳室周囲白質軟化症) の所見を認める

6) 診療体制等に関する情報

(1) 診療区分: 病院

(2) 関わった医療スタッフの数

医師: 産科医 4 名

看護スタッフ: 助産師 2 名

2. 脳性麻痺発症の原因

(1) 脳性麻痺発症の原因は、分娩経過中に生じた胎児低酸素・酸血症により脳室周囲白質軟化症 (PVL) を発症したことであると考える。

(2) 胎児低酸素・酸血症の原因は、臍帯圧迫による臍帯血流障害の可能性があると考える。

(3) 早産・低出生体重児であったことが PVL 発症に関与したと考える。子宮内感染が関与した可能性も否定できない。

3. 臨床経過に関する医学的評価

1) 妊娠経過

(1) 妊娠 27 週 5 日までの妊娠管理は一般的である。

(2) 妊娠 27 週 5 日に子宮頸管長短縮、切迫早産のため入院管理としたことは一般的である。また、入院後の対応 (子宮収縮抑制薬の内服、安静指示など) も一般的である。

(3) 妊娠 32 週 0 日の前期破水に対する対応 (子宮収縮抑制薬の投与、合成ペニシリン製剤の投与、同意書を取得し副腎皮質ホルモン製剤の投与を行ったことなど)

は一般的である。

- (4) 妊娠 32 週 0 日に前期破水となった状況で、妊娠 32 週 6 日にリトドリン塩酸塩注射液を中止とし分娩の方針としたことは一般的である。

2) 分娩経過

- (1) 妊娠 33 週 5 日 13 時 45 分に母体発熱(体温 38.0℃)があり、胎児心拍数陣痛図の所見(頻脈および変動一過性徐脈)から経過観察とし、14 時 20 分に超音波断層法(羊水量および臍帯巻絡の確認)を行ったことは選択肢のひとつである。
- (2) 妊娠 33 週 5 日 14 時 50 分からの胎児心拍数陣痛図所見(基線細変動の増加を伴った反復する高度変動一過性徐脈、遷延一過性徐脈)において、15 時 00 分に経過観察の指示としたことは賛否両論がある。
- (3) 妊娠 33 週 5 日 15 時 20 分に胎児心拍異常のため帝王切開による急速遂娩を選択したことは適確である。
- (4) 妊娠 33 週の早産、前期破水で発熱を認め、胎児心拍数陣痛図上、高度変動一過性徐脈が頻発している状況で、帝王切開決定から児娩出までに 62 分を要したことは一般的ではない。
- (5) 臍帯動脈血ガス分析を行ったことは一般的である。

3) 新生児経過

新生児蘇生(バッグ・マスクによる人工呼吸)は一般的である。

4. 今後の産科医療向上のために検討すべき事項

1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

- (1) 胎盤病理組織学検査を実施することが望まれる。

【解説】胎盤病理組織学検査は、新生児仮死が認められた場合には、その原因の解明に寄与する可能性がある。

- (2) 診療録の記載と家族からみた経過に一致しない点が散見される。診療方針や経過など家族からの疑問・質問が多くあるため、医療スタッフは妊産婦および家族とより円滑なコミュニケーションが行えるよう努力することが望まれる。また、妊産婦、家族と対話の機会を設け、分娩、新生児経過などについて十分な説明を行う体制を整えることが望まれる。

2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

- (1) 緊急帝王切開を決定してから手術開始までの時間を短縮できる診療体制の構築が望まれる。
- (2) 事例検討を行うことが望まれる。

【解説】 児が新生児仮死で出生した場合や重篤な結果がもたらされた場合は、その原因検索や今後の改善策等について院内で事例検討を行うことが重要である。

3) わが国における産科医療について検討すべき事項

- (1) 学会・職能団体に対して
なし。
- (2) 国・地方自治体に対して
なし。